

「綿花栽培及び国産木綿の製品化等に関するアンケート」

集 計 結 果 2010年10月

*アンケート依頼件数 63件 *回答件数 34件

Q1. 現在、貴団体(企業)は綿花栽培に取り組んでいますか。

① 現在、栽培している	19 件
② 栽培していないが、今後予定(検討)している	1 件
③ 以前栽培していたが、現在は栽培していない	1 件 (再開予定はない)
④ 過去もこれからも栽培の予定はない	9 件
⑤ その他 ・当団体(組合)は栽培していないが、組合員が栽培している ・(直接栽培はしてないが)和綿栽培の技術支援をしている ・(") NPO 渡良瀬エコビレッジの応援をしている	4 件

Q2. どのような種類の綿を、どの程度(畑の面積)、いつ頃から栽培していますか。

	過 去	現 在	将 来 (予定)
種 類	・ 和 綿 11 件	・ 和 綿 14 件	・ 和 綿 8 件
	・ 米 綿 10 件	・ 米 綿 9 件	・ 米 綿 4 件
	・ その他 各 1 件 (ペルー綿・アジア綿・陸地綿・洋綿)	・ その他 各 1 件 (アジア綿・陸地綿・洋綿・他、外来種)	・ その他 各 1 件 (アジア綿・陸地綿・洋綿)
	・ 不 明 1 件	・ 不 明 1 件	・ 不 明 1 件
作 付 面 積	・ 100 m ² 未満 3 件	・ 100 m ² 未満 4 件	・ 100 m ² 未満 2 件
	・ 100～ 500 m ² 未満 4 件	・ 100～ 500 m ² 未満 3 件	・ 100～ 500 m ² 未満 1 件
	・ 500～1,000 m ² 未満 2 件	・ 500～1,000 m ² 未満 3 件	・ 500～1,000 m ² 未満 1 件
	・ 1,000 m ² 以上 5 件	・ 1,000 m ² 以上 5 件	・ 1,000 m ² 以上 1 件
	・ 10,000 m ² 以上 1 件	・ 10,000 m ² 以上 2 件	・ 10,000 m ² 以上 2 件
	・その他 ・30-40株 ・小学校で栽培のため不明	・その他 ・30-40株 ・小学校で栽培のため不明	・その他 ・30-40株 ・八尾～東大阪中央環状線沿い ・計画的に拡大予定(面積未定)
※ 回答面積合計 約 24,000～34,000 m ²	※回答面積合計 約 65,000 m ²	※回答面積合計 約 72,000 m ²	

Q3. 綿花栽培をされたことがある団体(企業)の方(栽培予定を含む)にお聞きします。

① 【 栽培した(する)時期 】

・ 戦後 ～ 昭和時代	までの間に栽培をスタート	5 件
・ 平成9年 ～ 平成19年	〃	11 件
・ 平成20年 ～ 平成22年	〃	5 件

② 【 動機や目的、思い 】

◎ 【多数ご意見を一部抜粋、全ご意見は、別紙1 参照】

・ 和綿在来種の保存と伝承、各産地の綿織物の伝承、技術の継承、復元、復活、産地の活性化等の目的		10 件
・ 研究、学習の一環として	4 件	
・ 雇用創出、休耕地の活用	4 件	
・ その他		
・ 新たな創造の出来る可能性を見つけたから		
・ 安全安心の国産オーガニックの開発に取り組み、差別化を図る		
・ 日本で栽培された和綿かつオーガニックコットンでTシャツを作りたいという夢から		

Q4. 国産綿の製品化を検討していますか。

① すでに製品化を実施している	7 件
② 製品化を検討している	9 件
③ 製品化する考えはない	8 件
④ その他	2 件 ・和綿製品の製品化についての支援を行っている。 ・現在、製品化予定はないが、未来を考えると国産系の必要性は感じている。
⑤ 未回答	8 件

Q5. 国産綿の製品化を実施・検討している場合、どのような分野ですか。(複数解答可)

① 衣服関係	13 件	・下着 3件(赤ちゃん用他) ・ベビー用 ・靴下各種 ・Tシャツ ・ストール ・マフラー ・外国人向け、若者向けの衣類 等
② 糸や布地	12 件	・綿糸(手芸用、ガラ紡織、伯州綿、ハイゲージ糸) ・生地(デニム地、横メリヤス生地、反物 等) ・タオル、介護シーツ
③ 手芸品や各種小物 (雑貨)類	6 件	・手芸部材 ・アクセサリ雑貨(シュシュ、藍染のアクセサリ等)
④ 綿のリースや切り花	2 件	・X'mas用綿花の花束
⑤ その他	6 件	・ベビー布団などのベビー用品 ・綿種油 ・民芸、工芸品 ・綿毛布 ・河内木綿文様をいかした製品を多数
⑥ 未回答	16 件	

Q6. 製品化する上で、どのような困難がありますか。(複数解答可)

① 綿花栽培をする場所(畑等)の確保が困難	9 件	② 綿繰り(種の除去)に苦労している	13 件
③ 製糸(紡績)作業が困難	11 件	④ 織布等の設備や技術の確保が困難	7 件
⑤ 染色等が困難	1 件	⑥ オリジナル製品の開発に苦慮している	2 件
⑦ デザイン開発に苦慮している	2 件	⑧ パッケージング等に苦慮している	3 件
⑨ 販路の確保・開拓が困難	6 件	⑩ 技術者の確保・養成に苦慮している	5 件
⑪ 事業資金が不足している	8 件	⑫ その他	4 件
未回答	12 件		

(多い順)

順番	アンケート用紙 選択番号 ・ 項目	件数
1	② 綿繰り(種の除去)に苦労している	13
2	③ 製糸(紡績)作業が困難	11
3	① 綿花栽培をする場所(畑等)の確保が困難	9
4	⑪ 事業資金が不足している	8
5	④ 織布等の設備や技術の確保が困難	7
6	⑨ 販路の確保・開拓が困難	6
7	⑩ 技術者の確保・養成に苦慮している	5
8	⑧ パッケージング等に苦慮している	3
9	⑦ デザイン開発に苦慮している	2
10	⑥ オリジナル製品の開発に苦慮している	2
11	⑤ 染色等が困難	1
	⑫ その他	4

◎ 具体的には【多数ご意見を一部抜粋、全ご意見は 別紙 2 参照】

- 人手と手間が掛かる（除草作業、水やり等の畑の管理、製糸作業等） 5 件
 - → → 紡績会社等の支援が必要 2 件
 - → → 製品化にするにしても(上記の理由で)コストが掛かりすぎる、値段が高くなる 2 件
- 収穫量が不安定なので、その後の展開の計画が困難
- 元々、国産(和綿)であったものを復活させるのは非常に素晴らしいことですが、工業的に栽培された綿の収穫・輸送、綿の品質の確保、コストなどクリアすべき課題が多々多いと思うが、是非頑張って欲しい。
- 販路が全く見えない
- 補助金により和綿の栽培、紡績、商品化に取り組んでいるが、補助金が終了した、(収益面で)栽培できるか不透明

Q7. 別紙の呼び掛け文についてどう思われますか。

① 全面的に賛同できる	15 件
② 賛同できる部分もある	13 件
③ 賛同できない	1 件
④ 未回答	5 件

◎ 具体的には【多数ご意見を一部抜粋、全ご意見は 別紙 3 参照】

- 綿栽培をしている方や関係者の方との横のつながりの場は中々ないので、問題解決や発案等の情報交換ができる交流の場があるのは素晴らしい、期待している。(6 件)
- 国内でこのような動きが出てきたのは大変喜ばしい。大いに協力したい。
- 我国の繊維産業活性化に大きく貢献できるものと期待している。
- 参加賛同については問題なく協力したい。しかし費用面が不明のため、(後々)問題が生ずる場合もあるのでは。

Q8. 来春(5/21 予定の)「全国コットンサミット」を開催する場合、参加する考えはありますか。

① 参加したい	14 件
② 参加を検討したい	11 件
③ 参加する考えはない	4 件
④ わからない	4 件
⑤ 未回答	1 件

Q9. 自由ご意見（貴団体(企業)の現状や日本の繊維産業、綿花栽培のことなどについて）

- ・和綿についてもっとたくさんの方々を知ってもらいたいと思っている。衣も国内で自給できることが出来たら素晴らしいと思う。今年7月に伯州綿ブランド”hakuu~”を立ち上げた。
- ・当センター内に高島綿’Sクラブというグループがあり、いろんなことに取り組んでいる。
- ・趣味の人達で綿花を栽培し、手織機で小物を作っている。地域ブランド「三河木綿」では寝装品を中心に綿素材商品開発に力を入れている。日本の綿花栽培の発祥の地ですが、休耕地を利用しての栽培も可能(マニュアルさえあれば)だと思う。その後どこまで紡績や栽培者が本気で取り組むことができるか、コストは二の次である。
- ・昨年7月に「わたわたプロジェクト」を発足。今年5月までにコットニストを募集し、微量だが綿を集め、製品をつくることを目指している。内閣府が実施している「社会的企業・起業プランコンペ」に参加するため、受講している。
- ・デニム系の染色を手掛けているが、染色している綿糸のほぼ100%が海外から輸入である。低価格志向で糸の調達のみならず、デニムの生産拠点が海外へ移転される傾向にある。安いだけのものに対抗し、国産デニムの差別化を図り、「安心、安全な国産オーガニックジーンズ」の開発に取り組んでいる。
- ・障害者の働く事業所(施設)で栽培をしているが、まだまだわからないことだらけで勉強させて頂ければと思う。この地域に貢献できることをやって行きたいと思うので綿づくりに挑戦している。
- ・ゆったりとした歩みではあるが、確かな手ごたえを感じている。今後も同様に進んでいくが、産業、商業、他の業界との接点を模索しながら共に成長できるパートナー、地域作りも同時に行っていけたらと考えている。ただし、取り巻く状況は決して楽ではないので大変頭を使うことが多い。
- ・在来種の綿を栽培しての物づくりは産業的にはかなり無理がある。綿を産業として考えるか、趣味の延長で捉えるかをよく吟味して進まない、生涯学習の集まりになると思う。
- ・国産綿花栽培については良いことだが、趣味的レベルあるいは一部マニア的な発想や生産レベルではなく、企業的なレベルの方向性で進めて欲しい。
- ・自らの栽培は難しく、製品は無理。
- ・3大学と連携して、紙おむつリサイクルシステムをテーマに、綿花畑を栽培している。またシルバーファッションショーやシンポジウムを行っている。
- ・本校では学生の素材知識向上のために栽培している。和綿と米綿の違い、糸作りなど実際に行うことで知る。
- ・和綿の良さを引き出した製品作りに取り組む中、製品化する際のコストが掛かりすぎるのが問題。価格が付けにくい。
- ・有機JASの対象品目に綿花をくわえることが出来れば、認証機関である県において低額で認証の取得、維持が可能となるため、産地で連携した取組みができれば良い。
- ・GOTS のオーガニックコットン栽培の認定制度では、審査基準が厳しく、また莫大な費用が掛かるため、JAS 法でのオーガニック栽培の認定基準を共同で申請したい。
- ・国内繊維産業、綿織物業会は縮小、疲弊しているが、日本の目指す方向は、唯一の国家資源である人の知恵を活かしたものづくり国家として如何に維持、発展させるか、ものづくり繊維産地を元気付ける1つのキッカケになればと思う